

## NO.1 「JR新駅を核とする新たなまちづくり」提起

JR新駅設置決定を機に、東部地域の新しいまちづくりを、地域を挙げて且つ官民一体となって推進していく必要ありとして地域のリーダーの皆様へ提起し進め方を詰めております。地域づくり・人づくりに関わってくださっている地区自治会他各組織・各団体の多くの方々にご参加・検討をお願いしようとしています。

### 提案の主旨・背景

「JR新駅設置決定」の感慨に浸っているだけでなく、地域一体となって、新駅を核とした“将来ビジョン”を掲げ、共有し、磐田市民として誇れるまちづくりを推進する責務があろう。まずはその体制作りから進めよう。」として 仮称「**東部地域新生まちづくり懇話会**」の立ち上げを提起しております。

懇話会組織案（イメージ）・ビジョン素案（イメージ） は下記の通りです。

- 地区自治会
- 地区公民館
- 地区老人会
- 地区青年会
- 地区子ども会
- 新駅設置推進委員会
- 幼稚園PTA
- 小学校PTA
- 中学校PTA
- 新貝土地区画整理組合
- 鎌田第一土地区画整理組合
- 鎌田まちづくり検討委員会
- 御厨文教委員会（若菜の集い主催）
- 御厨を良くする会
- 田原水車の里愛護会
- 御厨うさぎ山を守り育てる会
- 西貝ひょうたん池自然を考えよう会
- 南みくの水辺の里を創造する会
- その他青少年育成団体
- その他ボランティア団体
- 地域企業他

JR 新駅を核とする新たなまちづくり

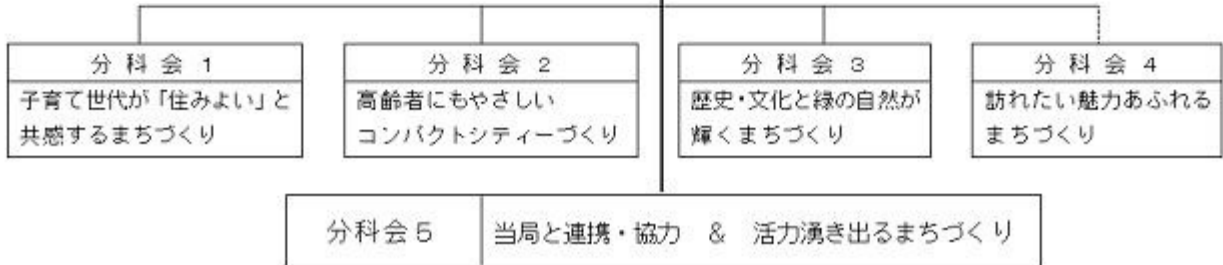
## 東部地域新生まちづくり懇話会

委員長：  
副委員長：

事務局

オブザーバー

### 人と歴史と緑の自然をつなぎ輝くまちづくり



東部地域新生まちづくりのイメージ

“人と歴史と緑の自然”を  
つなぎ輝くまちづくり



トンボ生息日本一  
桶ヶ谷沼



古戦場 大日堂

旧東海道松並木



ジュビロヤマハスタジアム



台地に広がる工業団地

隠れた  
桜の名所

田原水車の里

河川敷サッカー場

国指定

松林山古墳



安久路公園 多目的広場



隠れた名所

太田川



豊富な湧水  
ホタルスポット

ひょうたん池



古刹名園

医王寺



鎌田神明宮

青少年育成の聖地

坊中学校跡

うさぎ山公園



カワバタモロコ

南みくり水辺の里



はまぼう公園



福田漁港



## NO.2 “健康寿命延伸” “お達者度静岡県第1位” を目標に、

### 市健康増進計画

## 「健康いわた21」を市民と危機感を共有して取り組み推進

2060年 国の借金 8,150兆円に膨張・・・（現在 1,024兆円）

その時、年金・医療・介護の社会給付費は 530兆円（昨年度は111兆円）

磐田市の 国保・後期高齢者医療・介護保険の3特別会計合計額は

H26年度予算 301億9百万円 5年前予算と比べ+55億4百万円

磐田市の 一般会計民生費（子育て関係を含む福祉関連事業費）

H26年度予算 181億77百万円 5年前予算と比べ+60億73百万円

磐田市の 一人当たりの後期高齢者医療費推定 774,872円

この数字に、H26年4月末 75歳以上の人口 19,646人を

掛けると 152億23百万円

2040年 若い女性半減 全国自治体の半分が消滅・・・

磐田市は 44.4%減少 と 衝撃的警告

上記のような膨大な数字・衝撃的記事を理解した時、私たちは危機感を共有して、健康を保ち維持することの必要性を強く感じます。それゆえ、社会全体で、市民運動に高めて健康づくりに取り組むことを提起するものです。

### 6月定例会における私の一般質問

“第2次磐田市健康増進計画「健康いわた21」の推進について”は  
上記新着情報に掲載

## NO. 3 気になる磐田市の「有効求人倍率」

### 国や県の上昇する数値に逆行して下げている！

	H25. 12 月	H26. 1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
磐田市	0.84	0.90	0.89	0.86	0.79	0.75
静岡県	0.94	1.00	1.01	1.03	1.05	1.07
全 国	1.03	1.04	1.05	1.07	1.08	1.09

「住んで良かった」「住み良い地域」を標榜する時、最大条件は、何ととっても良い仕事の場があること、働き場所があることです。それゆえ上記の数値が気になるのです。6月の数値を見て分析しての判断としますが、もしかしますと磐田市として厳しい課題に浮上してくるかもかもしれないと思っています。

## NO. 4 少子化、人口減少への抜本対策

2040年、若い女性30年で半減・全国896市区町村将来消滅の可能性・・・  
(磐田市は-44.4%の減少推計)  
出生数 最少の102万人 「人口1億維持」壁高し・・・  
合計特殊出生率 1.43 人口維持には2.07人必要・・・  
(磐田市は1.57%<平成20年~24年>)

上記のような厳しい記事が飛び交い、少子化対策・人口減少対策待ったなしの状況に政府もやっと「地方創生本部“まち・ひと・しごと創生本部”」を立ち上げることを発表し、地方の取り組みを積極的に応援する方針を打ち出しました。

本格的な解決に向けて、出産・育児支援に大胆な対策を期待していますが、「子どもを育てるなら磐田」を目指す当磐田市としても、他市へ先駆け、思い切った施策への舵取りが課題だと思料しています。